みんなで考える、子どもの未来

あかつき道徳TIME

vol. 02 September 2023

「道徳の授業がなかなか深まらない」「内容項目の理解が足りない」と授業で悩む先生の声をよく聞く。そんな先生たちのために、学校全体ではどのようなことができるのだろうか。本号では、具体的な実践例を踏まえながら校内研修の重要性に迫り、道徳のプロ集団の育成を考えていきます。

校内研修で道徳のプロ集団へ

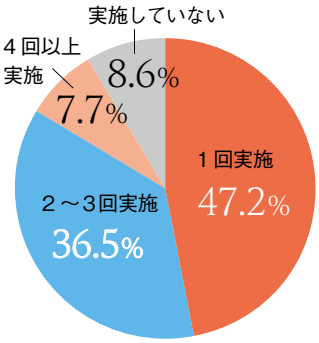
植田和也（香川大学教授）

香川県の公立小学校教諭から人事交流制度で平成15年度から4年間、香川大学へ。その後、公立小学校教頭、香川県教育委員会東部教育事務所主任管理主事、所長補佐を経て、平成25年度より香川大学教育学部准教授、平成29年度より現職。令和3年度より2年間、附属高松小学校長を併任。

なぜ校内研修が大切なのか

校内研修は、教師というプロの専門家集団としての自主性や自律性を育む観点からも重要な活動です。しかし、道徳教育の校内研修の全国的な実施回数はまだまだ少ないと言わざるを得ません。（図1）

図1 道徳教育の校内研修実施回数



道徳教育実施状況調査より（令和3年度）

働き方改革が叫ばれる中、時間の確保だけでも困難な状況があるのも事実です。しかし、ほんの短時間でも道徳の校内研修を持続的に行うことで、学校全体の道徳教育が充実し、子どもたちの多様な成長や道徳科で学びが深まる姿を目の当たりにしてきました。

教員の時間確保やモチベーション維持のための環境整備など、課題も踏まえたうえで、各学校の組織特性や構成を生かして、いかによりよい校内研修を実現していくのかが問われます。

自校の現状を把握する

まずは、自校の道徳教育を具体的に思い浮かべたり、同僚と語り合ったりしてみてください。そのような具体的な姿やイメージを描きながら自校の道徳教育の現状について正確に把握することが重要です。加えて、次のような視点で道徳教育の推進体制も振り返ってみることが改善への具体的な一歩につながります。

道徳教育 推進体制 チェックリスト

- □ 道徳教育推進教師、道徳主任、研究主任や管理職は、おのおのの立場で推進のリーダーシップを発揮しているか。
- □ 道徳教育のPDCAサイクルに関わる取り組みが、道徳教育推進教師任せになっていないか。
- □ 現代的な課題（いじめ、情報モラルなど）に、学校は組織として全教育活動で対応できているか。
- □ 道徳科の授業実施時数を管理職等が正確に把握できているか。

「チーム学校」として

道徳教育に求められるのは、先生方一人一人が、自らの立場や役割を自覚して、主体的に実践に取り組む姿であり、その姿こそが自律的な学校経営への推進につながる原動力となるのです。このような姿の教育活動ができる学校を実現していくには、管理職や道徳教育推進教師だけが、計画から実行までの旗振り役を全て担うのではなく、全教職員で取り組む組織としての推進体制が重要なのです。まさに「チーム学校」という組織としての推進を地道に実践していくことが大切です。

意識向上につなげる校内研修

「チーム学校」としての地道な推進を継続的に実施していくための第一歩として、一人一人が道徳科の授業改善を自分のこととして捉えることが大切です。

そのためには、短時間でよいので道徳科の授業づくりに関して各自が授業を振り返りながら、自らの課題を意識したり、具体的な授業改善の視点を確認したりする時間を設けてみてください。下の図のようなステップを、年度末や年度初めなどの短時間でよいので、全体や学年団で確認し、話し合ってみてください。

多様な校内研修

ここでご紹介したのは、教員一人一人の意識向上につなげる校内研修です。「チーム学校」として道徳のプロ集団となるための第一歩といえるでしょう。

道徳教育に関する校内研修の主な内容には、相互授業参観や授業研究等の多様なあり方が見られます。それに加えて、全体計画等の共通理解、理論研修、道徳科の授業で活用できる演習や実践的なワークショップ、環境づくりや作業等も、各校の実情に応じて展開されています。また、全員で集まらなくても「できることをできる範囲で実施する」工夫も考えられます。

他にも、最近では、校内で個人研修ができる環境づくりにも工夫が見られます。例えば、道徳教育コーナーが設置されて、道徳教育関連図書や過去の研究紀要、道徳教育に関する各調査分析のファイル、各研修会案内等が整備されている学校も増えてきています。

様々な実践例を参考に、自校や子どもの現状を踏まえながら、具体的に改善や実践の手立てを検討していくとよいでしょう。

道徳授業の課題を見える化し、改善するための 3STEP

STEP 1　目指す授業像をイメージする

基本的なことからの一歩として、学習指導要領解説の道徳科の目標を再確認しよう。そのうえで、自らの目指す授業像を自らの言葉で明確に表現してみよう。

STEP 2　自らの道徳授業の課題を可視化する

自らの道徳授業を振り返り、課題を表現して誰かに伝え、互いに課題を共有しよう。自己内にある課題意識や迷いも含めて、言語化しよう。少し恥ずかしさを伴うかもしれないが、伝え合うことで、なんとなく感じていたことが明確になる。各自が書き表すなどし見える化してもよい。参加者同士で課題を分類し合うなど、アレンジしてもよい。

STEP 3　課題を踏まえて改善の手がかりを検討する

「学習指導要領解説」も参考にしながら、改善の具体的な手がかりを熟考しよう。課題や改善点を受けて、日々の授業でより意識していきたいことを「そのために…」と考えてみよう。

道徳教育推進教師に期待すること

浅部航太
（東京学芸大学教職大学院准教授）

北海道公立小学校教諭を経て北海道教育大学教職大学院札幌校に長期研修派遣。その後、北海道教育庁空知教育局指導主事、北海道立教育研究所主任研究研修主事を経て、令和５年度より現職。第 25 回上廣道徳教育賞：最優秀賞を受賞。

自分に合ったリーダーシップを

道徳教育推進教師（以下、推進教師）は、ベテランがなることもあれば若手がなることもあります。経験年数の違いや道徳教育に関する経験や力量、一人一人の性格や個性によって、リーダーシップのあり方は異なります。校長の方針の下にエネルギッシュに先生方を引っ張っていくタイプ、論理的に的確な指示を出すタイプ、献身的に奉仕するタイプなど多様なリーダーシップが考えられます。

私が推進教師だった時は、学校に年配の先生が多かったこともあり、「率先垂範」を意識しました。積極的に道徳授業を公開したり、他学級で飛び込み授業を行ったりもしました。結果的に、学校としてどのような授業を目指していくか共通理解を図ることができ、推進にそれほど負担も感じませんでした。それは、自分に合ったリーダーシップの選択と周りの先生方の理解のおかげです。推進教師となった先生方には、周囲を巻き込み、自分らしいリーダーシップを発揮してほしいと思っています。

道徳通信の発行

私が行った取り組みをいくつかご紹介します。まず、不定期で道徳通信を発行し、国や教育委員会の動向や学校が目指す方向性、同僚が行う道徳授業のよさなどを掲載しました。同僚からは、「道徳通信を読んで、国の方向性や目指すべき道徳授業・評価について理解できた。」「授業前に道徳通信で学べるし、いつでも見返すことができる。」といった意見が寄せられました。

道徳通信

しかし、「もし道徳通信だけがあって、授業を見る場面がなかったら理解があまりできなかったと思う。」という声もありました。道徳通信の発行に加えて、推進教師が伝えたい内容を授業で具現化してこそ効果は高まります。道徳通信という「理論」と伝えたい内容を授業で具現化する「実践」のハイブリッドが道徳推進に大きな効果をもたらすのです。

実践の比較

推進教師として様々な授業を行い公開してきましたが、その中でも先生方の食いつきが非常によかったのが、他学級での飛び込み授業です。

初めて授業を行う学級ばかりであり、決して成功したとはいえない授業も数多くあった中で、「授業の考え方が変わった。」「勉強になった。」という肯定的な意見ばかりだったのです。参観する（ふだんその子どもたちと関わっている）先生方の中で、自身の授業での子どもの姿や自身の実践との比較が生まれ、自分ごととなっていたからでしょう。

他にも、道徳科の校内研修に取り組んでいる中で他校の研究会などを参観し、自校の実践と比較することも効果的でした。

このように、「実践を比較する場」を設定することが、道徳教育の推進や校内研修の充実につながる場合が多いといえます。推進教師は、このことを意識し、積極的に飛び込み授業や模擬授業、他校の研究会への参加を促すなどの取り組みをしてみてはいかがでしょうか。

道徳を楽しむ

たとえ、推進教師が道徳教育の指導や知識に不安を抱えていても、共通して言えることは、リーダーの心意気は必ず伝わるということです。そのためには、何よりリーダー自身が、道徳教育や道徳授業を楽しむ姿勢をもつことが重要なのです。

第2号　2023年9月1日発行　あかつき教育図書株式会社　〒176-0021　東京都練馬区貫井4-1-11　電話03-3825-9188（代表）　https://www.akt k.co.jp

無理なく、気軽に校内研修を始めよう

鈴木賢一
（愛知県弥富市立十四山東部小学校）
平成16年度から愛知県公立中学校教諭を経て、令和5年度より現職。第24回、第28回上廣道徳教育賞：優秀賞を受賞。

年間計画に校内研修を位置付ける

日々多忙でありながらも、道徳に対して悩みや不安を抱えていたり、勉強したいと思ったりしている先生方に向けて、無理なく行えるような日程を調整し、それを年間計画に位置付けることをお勧めします。

「予定が見えることで参加しやすい」という声を聞くことも多いです。道徳教育推進教師が中心となって、管理職や教務主任、学年主任とも相談しながら校内研修の場を確保できるとよいです。

左の表は、私が勤務していた中学校で実施した校内研修の一覧です。

回	月	内容とテーマ	使用した教材
1	5月	道徳開きについて	ロレンゾの友達
2	6月	教材分析：教材をどう読むか	卒業文集最後の二行
3	9月	教材分析：多様な指導法について	裏庭での出来事
4	10月	教材分析：発問について	カーテンの向こう
5	11月	模擬授業：問題解決的な授業とは	二通の手紙
6	12月	授業検討会：問い返しについて	明かりの下の燭台
7	2月	教材分析：価値の構造について	銀色のシャープペンシル
8	3月	評価について	なし

会議や行事、部活動等で忙しい時期はあらかじめ除いておき、研修が負担にならないような計画で行うことが大切です。

「参加したい」と思える研修に

模擬授業や教材分析、学習指導案の検討会など、バリエーション豊かな研修が行えると、多くの先生方にとって参加したいという気持ちにつながります。そのためには、推進教師一人で行うのではなく、他の先生方と協力して進めていくことが大切です。

推進教師とは別に、各回の担当者を決めておき、その担当者が今一番やりたいこと、困っていることなどをみんなで検討していくという方法も考えられます。

まずは声をあげてみるところから

研修を進めていくうちに、道徳授業後に職員室の片隅で自主的に振り返りを行う様子が見られるようになりました。一年間を経て、参加した先生方からはこんな感想が寄せられました。

- 道徳について、自分だけでなく、皆が同じ不安や悩みを抱えていることが分かり、少し気が楽になった。
- 職員が共通の課題や目標をもつことで、一体感や連帯感が生まれたと思う。
- 道徳授業に対してマイナスイメージをもっていたが、校内研修で一緒に授業の流れや発問を考えていく中で、今までよりも道徳授業をやってみたいと思えるようになった。

教科書や指導書があるため、校内研修を行わなくても、その通りにやったらいいという考え方もあるかもしれません。実際、忙しい先生方が毎時間、道徳の準備をするのは大変なことです。

しかし一方で、感想にあるように、校内研修が職員同士の一体感や連帯感、道徳のプラスイメージにつながっていることも確かです。

三人集まれば風が吹き、五人集まれば波となります。まずは声をあげてみませんか。

本資料は、一般社団法人教科書協会の「教科書発行者行動規範」に則って作成しています。